

広がる「書店在庫情報」公開

近くの書店在庫「見える化」

「目当ての本」容易に確認

多くの人に本と出会う機会を創出し、出版市場を拡大したい。そんな想いから始まった「書店在庫情報プロジェクト」。在庫情報を公開できる書店が500店を超えた。図書館関係者も賛同し、連携の輪が広がっている。これまでの経緯や現況について、同プロジェクト事務局の鎌垣英人に寄稿してもらった。

寄稿

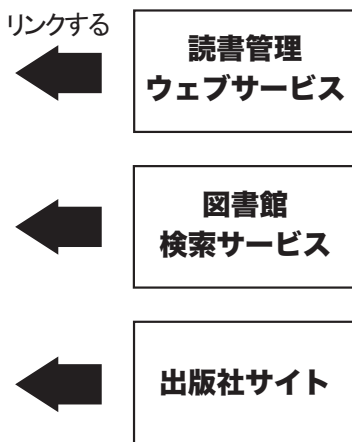
書店在庫情報プロジェクト事務局 鎌垣 英人

2023年8月にキ

J-PIC／版元ドットコム／カーリルがプロジェクト

書店在庫情報プロジェクトは、出版文化産業振興財団（J-PIC）、（株）カーリル、版元ドットコムが中心となり、読者がオンラインで容易に確認できる環境を整えるための取組

です。書店在庫をオープンにし、書店への導線をつくる



書店在庫情報プロジェクトは、版元ドットコム、カーリル、J-PICが中心となり、読者がオンラインで容易に確認できる環境を整えるための取組です。書店在庫をオープンにし、書店への導線をつくる

【書店在庫情報を利用した書店と図書館の連携イメージ】

トーハン、日販のシステムとも連携実験中

書店在庫情報プロジェクトは、版元ドットコム、カーリル、J-PICが中心となり、読者がオンラインで容易に確認できる環境を整えるための取組です。書店在庫をオープンにし、書店への導線をつくる

書誌情報近くに「リンクボタン」 書店への導線つくる

あるなら便利だ「そのサイトはどこにあるの？」という疑問は誰もがもつ当たり前の質問ではあり

うのが答えです。私たちの目指す世界は、書店から在庫情報を発信してもらい、その情報をオープンなものとして取り扱っていきます。あらゆるサイトで書誌情報にタッチした際、そこには「近くの書店の在庫を見る」というボタンを配置していきます。イメージしやすいのはアマゾンのリンクボタンです。ネットをさまよいつつ、決まってアマゾンのリンクボタンが登場します。欲しいと思った時に目の前に購入ボタンがあれば利便性は高まり、需要が掘り起こされます。2000年以降、ネットショッピングの在り方が進化・普及していくなかで、アマゾンがアフィリエイトという武器を駆使して、ほぼその購買導線を独占してきました。興味を湧いたらすぐに買いたいという気持ちに、街の書店が対抗するのは難しいのか、という問いはこれまで何度もあり、議論されてきました。それに対しての施策は、アマゾンのボタンの横に「近くにある書店の在庫を調べる」というボタンをつけることではないか。そう考えて取り組み始めましたが、最初は高いハードルの前に、難しいと考えられていました。それは何故かというと、現在の書店在庫は、リアルタイムで正確な在庫情報を発信することができないところにあります。

在庫情報とは、納品データの集積に対して日々のPOS販売データを引き、返品を引き算して、理論在庫値が算出されます。まず、このPOSシステムを積んだ書店管理システムは書店すべてに備わっていません。POSレジ未導入店も多く、取次会社が用意する書店管理システムも網羅されていないのです。仮に管理システムを導入する書店であっても、返品データは無伝で取次会社に送られており、その戻りデータを管理システムに取り込まないと引き算ができないため、現在日本の書店のほとんどがリアルタイムでの正確な在庫算出ができないのです。

この時流に即して、書店在庫情報プロジェクトでは、在庫開示をしているチェーン店に声をかけてきました。光和コンビニターの協力もあり、24年6月時点で、大垣書店（京都）、ブックファースト（東京）、くまざわ書店（同）、今井書店（島根）のチェーン書店と一部の小規模書店で実証実験を開始しました。

そんなこともあり、これまで書店業界では在庫開示に消極的でした。しかし、大型書店やナショナルチェーンにおいて、読者サービスとして開示する書店も増えてきました。この2社では社内システムの改修が必須であったことから、経産省の補助金の申請をしてお返ししてくれました。その改修が昨年12月に終わり、それとともに同12月12日、プレスリリースを出すこととなり、500書店が公開できるまでになったことを発表したのです。並行して動いていた書誌情報のそばにリンクを貼るという活動は、これまで、県立長野図書館など図書館のサイトとの連携が4件、小学館などの出版社連携が30件。

また、25年「本屋大賞」の際の候補作10点の書誌に対して版元ドットコムのサイト連携を行っています。貼ることで対応できます。info@openis.jpにご連絡ください。本の販売機会を増やすために役に立てるよう努めています。

500書店超が情報開示

一方、この動きとは別に、書店を取り巻く情勢が変化してきました。書店連が書店支援策を掲げ、文部科学省と経済産業省に働きかけ、「書店・図書館等関係者における対話の場」が発足し、りわけ文部科学省が主導するかたちで協議が始まりました。そこに団体と

「本コレ」も参入
ポータルアプリ実装

今年本プロジェクトが始まって3年目に入り、第3フェーズとして本稼働へ進むとしていたのですが、この局面で別の事業者からもサービスの立ち上げがありました。カタリストが運営する「本コレ」というアプリに書店在庫表示を実装するというものです。近くの書店の位置情報と在庫表示を二元的に表すアプリで、いわゆるポータルアプリとなっています。かつて新しいサービスも参入して、在庫開示が身近になってきました。局面は日々変化しておりますが、今年には書店が在庫開示をするのが当たり前となることを目指して書店在庫情報プロジェクトを進めていきたいと思っています。



貼ることで対応できます。info@openis.jpにご連絡ください。本の販売機会を増やすために役に立てるよう努めています。

今年本プロジェクトが始まって3年目に入り、第3フェーズとして本稼働へ進むとしていたのですが、この局面で別の事業者からもサービスの立ち上げがありました。カタリストが運営する「本コレ」というアプリに書店在庫表示を実装するというものです。近くの書店の位置情報と在庫表示を二元的に表すアプリで、いわゆるポータルアプリとなっています。かつて新しいサービスも参入して、在庫開示が身近になってきました。局面は日々変化しておりますが、今年には書店が在庫開示をするのが当たり前となることを目指して書店在庫情報プロジェクトを進めていきたいと思っています。